

Aoyama Gakuin Archives Letter

青山学院資料センターだより

27 号



中等部校舎建設前の敷地 (1948年)

1945年5月25日の空襲により青山学院は多くの建物を焼失あるいは破損することとなった。

当時、校地の南に隣接していた東京農業大学も講堂、書庫を残して全焼し、戦後は世田谷の旧陸軍自動車学校兵舎に移転することとなったため、1948年にその敷地約6,600坪を購入し、新学制による発足から2年後の1949年に中等部の校舎が完成した。現在は3代目の校舎となり、2022年に創立75周年を迎えた。

※写真上：左奥から本部棟（ベリーホール）・旧東京農業大学書庫・初等部講堂

※写真右：1949年に竣工した中等部校舎



青山学院史探訪

スクーンメーカーと福澤諭吉～津田仙という接点～その2 川島祥子— 2

資料センター所蔵資料紹介

明治和訳聖書の二大系統について 近藤泰弘— 4

資料センター利用状況・日誌抄— 6

受入れ資料— 7

利用案内ほか— 8

スクーンメーカーと福澤諭吉～津田仙という接点～その2

元幼稚園教諭 川島 祥子

1. 津田仙と福澤諭吉のつながり

この両者のつながりについて言及する。前述したように、両者は、1867（慶應3）年に注文した軍艦を受け取りにともに渡米している。築地明石町から現在の三田に慶應義塾が移転したのが1871（明治4）年であるが、津田はアメリカからの帰国後、麻布本村に土地を購入し野菜作りを始めているので、1871（明治4）年以降、歩いて行き来できる距離に住んだ津田は福澤とは、一層の交流を深めていたと思われる。その後、1873（明治6）年、国民の啓蒙を目的として森有礼が福澤らとともに設立した明六社に、津田仙も会員として加わっている。同年、津田は先述したようにウィーンにて初めて聖書に接している。一方、このとき英国聖公会宣教師のアレクサンダー・クラフト・ショーが慶應義塾の通りをはさんで向かいと言えるほどのところの大松寺に寄宿していて、後に、ショーは福澤家の子どもたちの家庭教師となり、構内にあった福澤家と橋でつないだ洋館に住み、学生にキリスト教を伝えている。キリスト教への関心や住居の物理的な距離感も含めて、津田と福澤の交流は緊密なものであったと推測できる。

興味深い手紙がある。津田がショー宛に書いた手紙である^[1]。日付は1884（明治17）年7月22日であるが、その手紙の中で、津田は自分のことを「彼（福澤諭吉）の友人の一人として」と述べており、福澤がキリスト教に友好的になったと記している。こうした友人としての関係から、津田がスクーンメーカーのことを福澤に報告し、実際、助けを求めることがあったのではないか。そうでなければ、後半で扱う慶應義塾と救世学校や海岸女学校との結びつきは考えられない。こうしたつながりの中で、宣教師であるスクーンメーカーの近代的な女性の生き方は福澤諭吉の「女性論」に影響を与えたと推測する。後半は、もう一人の英国国教会の女性宣教師ホアの存在にも言及して、このことを扱いたい。

筆者が慶應義塾の学生であったとき、日頃、通学にバスを利用していた。そのとき、バスは三田の校舎前から大聖院の脇を通り、三の橋を渡って行った。スクーンメーカーと福澤諭吉とのつながりを考える機会を頂いた今、何も知らなかった当時が思い出され、不思議な思いを抱いている。



救世学校時代に一部を教室として借りていた大聖院
（1990年11月撮影）

2. 慶應義塾とのかかわりが生まれる

その1で述べたように、筆者は、薬師堂のあったあたりから大聖院へと歩いてみた。三の橋を渡りまっすぐ行くと桜田通りにぶつかる。その行き止まりの通りをやや右方向に行くと大聖院がある。そこからわずかに何軒先に、福澤と27年間友情を結んだ英国聖公会宣教師のアレクサンダー・クラフト・ショーが当初寄宿していた大松寺があり、大松寺を曲がった真向かいに慶應義塾はある。ショーが大松寺に間借りしていた時期は1873（明治6）年。1874（明治7）年には、ショーのもとに福澤家の子どもたちが英語を習いに行くのであるが、福澤はショーを子どもたちの家庭教師にし、福澤家の隣に洋館を建

て、ショーを住まわせた。また1875（明治8）年にはショーは慶應義塾の「モラル」の授業にて聖書を教えた。さて、大聖院にて寄宿制で女子教育を始めようとしたスクーンメーカーのことはもとより福澤の知るところであっただろう。しかし、筆者は、1867（慶應3）年にともに幕府の要員としてアメリカに渡った福澤と友人関係にあった津田仙から、スクーンメーカーが麻布本村で女子小学校を開いて以来、すでに福澤はスクーンメーカーのことを聞いていたと推測する。それ故、福澤は実際に救世学校を助けている。というのも、救世学校に、慶應義塾から二人の教師がかかわっていたのである。「午前は生徒に日本語を学ばしめ、慶應義塾の相澤氏、高津柏禱氏とはその教師なりき」とある^[2]。スクーンメーカーは日本人ならば日本の学問を修めることが大事であるので二人を漢学の教師として招聘したとある^[3]。彼らが教えたのは十八史略などであった。福澤のかかわりがなければ、二人の教師の派遣は叶わなかったはずだ。さらに、試験を公開にして来賓（慶應義塾関係者であろう）に自由に学科の点を付けさせている^[4]。

この慶應義塾とのかかわりは、スクーンメーカーが築地に移り海岸女学校を開学した後も続く。特に、国語の授業は重要視されていた。さらに、裁縫について以下のように述べられた興味ある記事を見つけた。福澤は1878（明治11）年に「女子教育の事に付某氏に答」という書簡の形式で女子教育論を記しているのだが、その中で「近來或る西洋の女教師が日本に來りて、文学音楽の教授は勿論、料理、針仕事まで一切引き受け、無学無芸なる日本の女子を訓導して西洋文明の光を示さんとて女学校を開きたる者あり。然るにその女学大先生の技芸を問えば、反物を縫て衣服を縫うことは嘗て心得ずと云えり。（続き筆者要約：それはかの国では仕立て屋がする仕事なので、婦人がする必要はなく、できなくても恥ではないとのこと）我国に於いて然らず。（続き筆者要約：刺繍や縁飾りなどは、おもちゃのようなもので）・・・襦袢の仕立て、次いで反物を裁て男女の衣服を製するの芸を覚えるこそ緊要なれ」^[5]。かねてより福澤の意図を受けて、慶應義塾から来ていた漢学の講師の高津柏樹

も「女子は難しい書物を読めても裁縫が出来ぬと家庭を持ってから困る」というアドバイスをしている。福澤から高津への示唆があったのではないか^[6]。海岸女学校の授業は礼拝で始まり、午前は日本学課で、高津らの国語、漢文、数学、裁縫、午後は英語学課で、英語の祈りに始まり、英語、地理、歴史、物理が教えられた^[7]。試験の公開も救世学校から継続しており、これに関しては以下のように記述されている。「一年一回の大試験あれば、必ず公開して来賓の前に生徒を試験せり、慶應義塾その他の人々の招かれて試験場に来るを常とせり、これ嬢（スクーンメーカーのこと）の自信の厚かりしを見るべきなり、」^[8]。このあたりを読むにつけ、福澤は、海岸女学校の授業に関し積極的に関心を寄せ、助言を与えることもあったと推測される。

日本語の習得もさることながら学校運営の面でも苦勞に苦勞を重ねつつ、しかし、人々の中に出て行き伝道と女子教育をする志を高く掲げそれを全うしようと奮闘している宣教師スクーンメーカーの姿に福澤は接していたであろう。さらに、筆者は、このスクーンメーカーの労苦する姿が、後年福澤が英国聖公会から派遣された女性宣教師ホアの働きを支えたことの背景にあると考えている。福澤は両者を支援したが、これに留まらず、結果的に、この二人の女性宣教師の生きる姿そのものが、福澤の女性論・家庭論を支える実例となっていたと推測している。その3では具体的に福澤の女性論について記す。

註

- [1]『聖書を読んだサムライたち』守部喜雅 いのちのことは社 2010年
- [2]ミス、スクムメーカー（1）『護教』325号、1897（明治30）年10月16日号
- [3]ミス、スクムメーカー（2）『護教』326号、1897（明治30）年10月23日号
- [4]二十余年前の女学校『護教』436号、1899（明治32）年12月2日号
- [5]『女子教育の事に付某氏に答』、『福澤諭吉著作集』第10巻 p344
- [6]『しなやかに夢を生きる』棚村恵子 p203 註(13)
- [7]前掲書 p172
- [8]ミス、スクムメーカー（2）『護教』326号、1897（明治30）年10月23日号

明治和訳聖書の二大系統について

大学文学部日本文学科教授 近藤 泰弘

青山学院には、資料センターを中心に、明治期のキリスト教関係文献、特に和訳聖書が多く所蔵されている。筆者は、今年度、明治和訳聖書の研究を行うにあたって、本学院所蔵の聖書の一部を改めて拝見し、新知見を得たので、そのいくつかを今回ご紹介したい。

まず、明治期の和訳聖書の概要について述べておきたい。明治期の聖書翻訳は、幕末の新約聖書翻訳に始まるが、まず、プロテスタント諸派の中で開始された。ちなみに、正教会とカトリックの新約聖書全体の翻訳は明治末になってからであり、正教会は、日本正教会翻訳『我主イエス・ハリストスの新約』（1902年）、カトリックは、E・ラゲ翻訳『我主イエズス・キリストの新約聖書』（1910年）となる。前者は、主に、ニコライと、その助手の中井木菟麻呂の仕事である。本学院には、その関係の珍しい新発見の資料（近年収蔵）として『聖使徒経：羅馬』（1895年頃写・大学青山キャンパス図書館・193.711/S12）が所蔵されている。これは、ロマ書の翻訳稿本であり、正教会聖書の成立過程を知ることができる。

プロテスタントの聖書としては、ルーテル派の宣教師のC.ギュツラフが、漁民から学んだ日本語により、中国で1837年に刊行したヨハネ伝とヨハネ書が最初である。次の翻訳は、マカオにおける、長老派の出版者のS.W.ウィリアムズによるマタイ伝とヨハネ伝である。これは刊行されなかったが、ヘボン等の翻訳に影響を与えている。次は、長老派の宣教師のB.J.ベッテルハイムによるものである。彼は1855年のルカ伝、ヨハネ伝を始め、漢和対訳福音書など多くの和訳聖書を海外で刊行した。ベッテルハイムの和訳聖書は、本学院資料センターにも香港版漢和対訳路加伝、ウィーン版約翰伝など複数所蔵されている。特にウィーン版は珍しい。次が、バプテスト派の宣教師のJ.ゴープルによるマタイ伝（摩太福音書）で、1871年に

横浜で刊行された。これが知られる限り、国内最古の印刷聖書となる。次が、その翌年に、横浜で、長老派宣教師のJ.C.ヘボンによって刊行されたマルコ伝とヨハネ伝ということになる（資料センターにも所蔵）。このように初期の聖書翻訳はプロテスタント諸派の中で行われたのが特徴である。ヘボンたちは、その力を結集して聖書翻訳を進めるべく、翻訳委員会社中（後に、聖書翻訳委員会）を作ったが、そこには、S.R.ブラウン（改革派）、D.C.グリーン（アメリカン・ボード）、さらにR.S.マクレイ（メソジスト派・青山学院初代院長）、J.パイパー（英国聖公会）、N.ブラウン（バプテスト派）なども加わって1880年に「新約全書」が完成した。なお、明治政府のブレインとして有名なG.フルベッキ（オランダ改革派）は、後に、旧約聖書翻訳から参加している。

このようにプロテスタント諸派の共同訳としての性格を持っていた翻訳委員会版の明治和訳聖書であるが、1876年に、最初の分冊刊行となる「路加伝」が刊行される頃から、バプテスト派のN.ブラウンと、その他のメンバーとの間にいくつかの論争が生じた。中でも有名なのが、「洗礼」の訳語問題である。ギリシャ語で Baptisma（バプテスマ）であるが、この訳語は、当初より揺れていた。ヘボンは最初の訳では「洗礼」と訳したが、N.ブラウンはこれに反対し「しづめ」（身体を浸す意味）と訳し、1879年に単独で出版した新約聖書の翻訳に採用した。ヘボンたちもさらに訳語を検討し、原語発音を尊重し、委員会版では「バプテスマ」と訳した。この訳はその後、プロテスタント諸派の聖書に継承されている。なお、新共同訳聖書では、カトリックに継承されている「洗礼」の訳語も併用している。この大元は、儀式としての形態の問題でもある。だから、中国語訳でも、やはり長老派系では「洗礼」、バプテスト系では「浸」と訳している。委員会以前の和訳でも、長老派のベッ

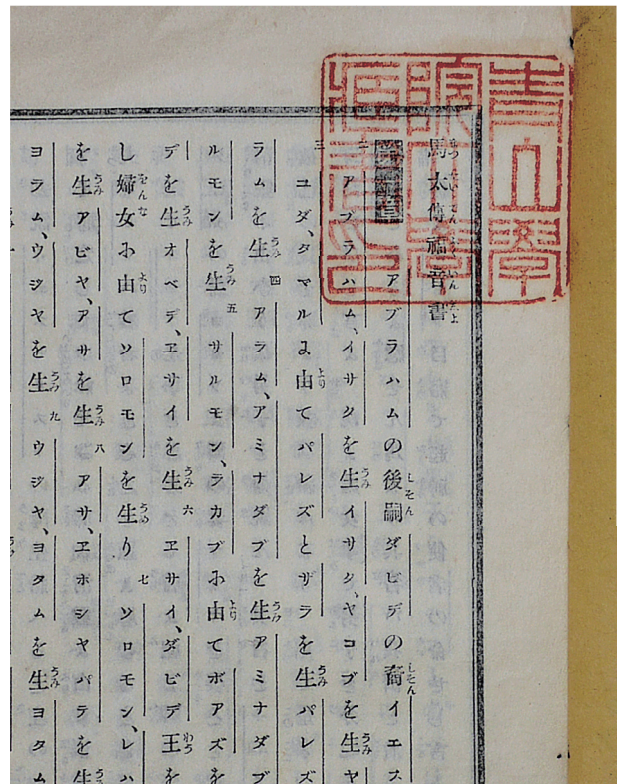
テルハイムは「洗礼」、バプテスト派のゴープルは「ひたす」と別れている。N.ブラウンが翻訳委員会を脱退するに至った主たる原因が、これであったという説は、小澤三郎氏の述べたものだ(参考文献参照)。その点がどれだけ大きかったかについては意見が分かれるが、問題があったのは間違いない。

ということで、明治期和訳聖書の翻訳史においては、長老派を中心とした、聖書翻訳委員会の聖書と、N.ブラウンによるバプテスト派の聖書と、大きく分けて2つの系統となっていると言っているだろう。N.ブラウンが依拠したギリシャ語底本や英訳も、ヘボンたちとは異なっていることは、川島第二郎氏の説があり、拙稿にも述べた(参考文献参照)。また、N.ブラウン訳は全文平仮名であることに特色があった。1875年から分冊で新約聖書刊行を始め、1879年には、全体を刊行した。その後、さらに改訂版が分冊で刊行されたが、N.ブラウンは晩年になって、漢字交じり文による翻訳も許容し、英国バプテスト派の宣教師のW.ホワイトが中心となって、ブラウン訳を漢字平仮名交じりに改訂する作業が行われ、1886年には、横浜浸礼教会から刊行された。ところが、その過程で、数段階の稿本が作成されたのだが、その一部が立教大学に所蔵されていることが知られている。海老沢有道氏によれば、稿本巻末に、マタイ伝だけの刊本を刊行することにしたという記事があるとするが、氏も、ついに、それを発見することができなかった(参考文献参照)。その未発見のマタイ伝刊本が、実は、本学院資料センターには所蔵されていることを今回の調査で見い出すことができたのである。

漢字平仮名交じり活字本の「新約聖書馬太伝」(193.61/S6・参考写真)。この本は、5号金属活字による漢字平仮名交じりという体裁で、よくある明治13年刊(推定)の翻訳委員会編『新約全書』の分冊本の1冊と見まがうものである。本学の各種目録等にも特別な注記はない。しかし、その本文を観察すると、冒頭部分から「ダビデの裔(しそん)」とあるが、通常の翻訳委員会の訳では「ダビデの裔(こ)」とあり相違する。N.ブラウン訳(1879

年)では「だびでのしそん」とあり、そちらに合致するのである。また3章1節に「施浸者(しづめびと) ヨハネ」という「浸」を用いた訳語が明確に存在することも、これが、ブラウン訳ホワイト校訂の未発見「馬太伝」刊本であることを明白に示していると考えられる。そもそも冒頭の「馬太伝」のルビが「まつたいでん」とあることがブラウン訳の証拠である。

以上述べてきたように、本学院の所蔵する明治期和訳聖書には、まだ研究されていない貴重なものが数多く含まれている。今後の更なる研究を期待して、今回の筆をおきたい。



N.ブラウン訳馬太伝

(参考文献)

- 海老沢有道「ホワイト校訂馬太伝稿本—いわゆるバプテスト派新約聖書について—」(『史苑』・20-1・立教大学史学会・1959年6月)
小澤三郎『幕末明治耶蘇教史研究』(日本基督教団出版局・1973年)
川島第二郎「ネイサン・ブラウンと『志無也久世無志與』」(復刻『志無也久世無志與』別冊・新教出版社・2008年)
近藤泰弘「明治元訳新約聖書の系統と文体」(『国語と国文学』東京大学国語国文学会・2022年8月)

資料センター利用状況等（2022 年度前期利用状況）

1. 月別利用者数

		4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月		計	
		前年度	今年度	前年度	今年度	前年度	今年度	前年度	今年度	前年度	今年度	前年度	今年度	前年度	今年度
展 示 見 学 者 数		66	97	9	52	23	836	134	645	3	2169	10	193	245	3992
資 料 閲 覧 者 数		3	11	2	5	5	9	2	5	3	2	4	10	19	42
閲覧者の 区分	本学学生	1	0	1	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3	2
	現教職員	2	7	1	3	3	2	1	0	2	0	2	3	11	15
	旧教職員	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	2
	校友	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	4	0	8
	他大学教員	0		0		1		0		0		0		1	
	牧師	0		0		0		0		0		0		0	
	一般	0	4	0	1	0	3	1	2	0	2	2	3	3	15
利用の目的	教会史編集	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	学校史編集	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	著述・論文作成	0	1	0	0	0	0	0	3	2	0	1	2	3	6
	伝記資料調査	0	3	0	2	0	0	1	0	0	0	0	1	1	6
	記録類の調査・研究	1	2	1	0	1	4	1	1	0	2	1	3	5	12
	その他	2	6	1	3	4	5	0	1	1	0	2	4	10	19
資料の種類	青山学院史関係 (AA)	3	33	0	44	1	39	1	180	2	7	4	20	11	323
	メソジスト教会関係 (B)	0	31	0	15	0	6	0	0	1	0	1	0	2	52
	英語・英文学関係 (旧 F)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	明治期キリスト教関係 (旧 G)	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	4
	一般分類図書	0	1	2	3	1	6	0	4	1	0	0	22	4	36
	その他	0	0	0	0	3	3	1	0	0	0	0	0	4	3

※ 利用の目的・資料の種類は重複回答あり

※ 今年度分より閲覧者区分の他大学教員・牧師は一般に含む

2. 月別レファレンス件数

		4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月		計	
		前年度	今年度	前年度	今年度	前年度	今年度	前年度	今年度	前年度	今年度	前年度	今年度	前年度	今年度
件 数		10	11	8	12	14	15	6	11	8	5	16	11	62	65
質問者の 区分	学生	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	2
	現教職員	8	10	4	5	6	8	1	2	3	2	6	2	28	29
	旧教職員	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	校友	1	0	0	1	1	2	2	1	1	0	4	5	9	9
	一般	1	1	3	6	7	3	3	7	4	3	6	4	24	24
質問内容	文献所蔵調査	3	5	4	4	2	6	3	3	4	1	4	5	20	24
	写真所蔵調査	1	5	1	1	2	2	1	0	0	0	3	1	8	9
	事項調査	5	1	3	6	10	7	1	7	3	3	8	5	30	29
	その他	1	0	0	1	0	0	1	1	1	1	1	0	4	3

3. 日誌抄

2022年
4月

- ・大学入学式応援業務
- ・新年度礼拝に出席
- ・常設展示、一部を展示替え
- ・大学総合文化政策学部 鳥越ゼミ、展示ホール見学
- ・新任職員研修会のためキャンパスツアー及び展示ホール見学案内
- ・防災委員会に出席
- ・全学院事務連絡会に出席
- ・第6回歴史資料館開設準備委員会を開催（学習院大学史料

館を見学）

- ・横須賀市教育委員会、来室

5月

- ・臨時事務連絡会に出席
- ・短大移管資料説明会に出席
- ・第7回歴史資料館開設準備委員会を開催
- ・短大コレクション「椅子展」に展示協力（会期：2022/5/24～6/18）
- ・武庫川女子大学附属総合ミュージアム、来室
- ・防災委員会に出席
- ・全学院事務連絡会に出席
- ・2022年度第1回資料センター運営委員会を開催

6月

- ・西南学院史資料センター、来室
- ・短大より拡大印刷機を移管、設置
- ・2022年度第1回青山学院150年史編集委員会に出席

- ・大学ペアレンツ・ウィークエンド キャンパス見学会のため開館時間延長 (6/11)
- ・2022年度第1回資料センター展示委員会を開催
- ・第1回創立150周年記念事業実行委員会に出席
- ・防災委員会に出席
- ・青山学報編集委員会に出席
- ・大学写真研究部「新人展」のため展示室5を貸出 (会期: 2022/6/20～6/24)
- ・全学院事務連絡会に出席
- ・大学国際政治経済学部 藤重ゼミ、展示ホール見学
- ・青山学院150年史編纂本部会議に出席
- ・2022年第1回青山学院史研究所運営委員会に出席
- ・第8回歴史資料館開設準備委員会を開催
- ・初等部に資料貸出

7月

- ・青山学院資料センターデジタルアーカイブ公開
- ・職員のサーバント・リーダー育成プログラム「サーバント・リーダーの姿～青山学院緑岡小学校校長 米山梅吉～」に出席
- ・書籍資料、修復のため業者に貸出
- ・防災訓練 (設置学校応援班事前訓練) に参加

- ・全学院事務連絡会に出席
- ・定期試験監督者説明会に出席
- ・相模原キャンパスにて学院変遷図を展示替え
- ・常設展示、一部レイアウト変更
- ・未来構想案件予算ヒアリングに出席
- ・定期試験監督補助応援業務
- ・「Aoyama Gakuin Archives Letter」26号発行
- ・第9回歴史資料館開設準備委員会を開催
- ・展示ホール臨時休館 (7/30)

8月

- ・遺愛女子中学校高等学校、来室
- ・梨花女子大学梨花歴史館、来室

9月

- ・書籍資料、修復完了のため業者より返却
- ・弘前学院大学文学部、来室
- ・総合防災訓練に参加
- ・臨時事務連絡会 (メール会議) に出席
- ・青山学報編集委員会 (メール会議) に出席
- ・未来構想案件予算説明会に出席
- ・全学院事務連絡会に出席

2022 年度前期受入れ

資料

(学内部署からの資料は除く)

寄贈 (敬省略、受入順)

清水和子

- 『外遊九年:全』田村哲著 目黒書店 1908年11月

宇佐見邦輔

- 教員免許状 家事 今井登喜 1937年4月30日
- 高等女学部卒業生 総代答辞原稿 今井登喜 1934年3月15日
- 女子専門部 料理レシピ帖I・II
- 第19回栄養士国家試験 合格証書 田中登喜 1966年11月19日
- 栄養士免許証 田中登喜 1966年12月17日
- 恵比寿中国料理学院師範認定書 田中登喜 1971年4月16日 (写真①)
- 故陳建民弟兄葬式礼拝 次第 1990年5月14日
- 第19回中国語検定試験3級認定証書 1991年1月23日
- 女子短期大学 河見誠からの礼状及び写真 2004年1月
- 大村勇から年賀状 1986年1月
- スプロールズ・鳥居・中川先生との集合写真 ほか資料11点

Stella Rae Millikan

- 「Mission: Then and Now」Stella Rae Millikan著『福岡女学院大学短期大学部英語英文学紀要』第58号抜刷 2022年3月
- 「日本への宣教師、J.M.ギールの足跡をたどる」Stella Rae Millikan著 2022年3月
- 『福岡女学院資料室ジャーナル』vol.2 2021年7月1日

本橋由行

- 2002年青山学院大学厚木キャンパス四季の風景 写真アルバム (1) ～ (3) 2002年
- 青山学院大学 厚木キャンパスお別れ会開催要領 2002年11月6日

岡部一興

- 「『長谷川誠三・津軽の先駆者の信仰と業績』を出版して」岡部一興著『横浜プロテスタント史研究会報』No.69、70 2021年5月1日、2022年3月25日
- 「弘前学院のルーツ-本多庸一と長谷川誠三-」岡部一興著『弘前学院大学大学院社会福祉学研究科 社会福祉学研究』第10号 2022年3月15日

青山学院女子短期大学同窓会

- 『青山学院女子短期大学同窓会会報』第48春号、第48秋号 2022年4月25日、2022年10月1日

港区総務部総務課区史編さん担当

- 『港区史』第4巻 通史編 近代 上・下 港区 2022年3月

吉川均

- 『うたのまち逍遙 歌あれこれ』改訂版 吉川均著 2022年4月

27日 (写真②)

相川良彦

- 「森有礼の先妻・常の肖像写真-漱石『三四郎』の広田先生の夢の女のモデル-」相川良彦著『季刊文科』第88号 (2022) 夏季号 2022年4月30日

青山学院大学グリーンハーモニー合唱団OB会

- 『青山学院大学グリーンハーモニー OB NEWS』No.65 2022年4月

和田誠一

- 和田剣之助関連映像 (ブルーレイディスク)

島崎澄子

- 青山学院女子高等部卒業記念アルバム 1951年3月

青山学院高等部同窓会事務局

- 『青山学院高等部同窓会報』Vol.82 2022年6月24日

岡田光世

- 『ニューヨークが教えてくれた"私だけ"の英語-あなたの英語-だから、価値がある-』岡田光世著 CCCメディアハウス 2022年7月4日

近藤泰弘 (大学文学部教授)

- 「明治元訳新約聖書の諸本の系統と文体」近藤泰弘著『国語と国文学』2022年8月号 2022年8月1日

青山学院大学文学部英米文学科同窓会

- 『青山学院大学文学部英米文学科同窓会会報』第47号 2022年7月15日

日本基督教団田名部教会

- 『創立110周年記念誌 祈りの果实』日本基督教団田名部教会 2022年4月1日 (写真③)

星野正興

- 『児童説教』西阪保治著 新教出版社 1951年 2冊
- 『児童説教集 白ゆりの花たば』西阪保治著 みぎわ社 1965年3月
- 『サムエル物語 聖書少年文庫』西阪保治著 新教出版社 1957年12月 (写真④)
- 『日曜世界』第9巻 第3号、第18巻 第8号 日曜世界社 1916年2月25日、1925年8月1日
- 『こども聖歌集 (1) なぞの国』今川節作曲 日曜世界社 1933年10月20日

津田道夫

- 「津田家の親族・八王子千人同心栗沢家」津田道夫著『舊交會』第29号 2022年7月29日
- 小崎千代アルバムより切り取り写真付台紙

脇屋義人

- 『The New Testament of our lord and saviour Jesus Christ, translated out of the original Greek: and with the former translations diligently compared and revised, by his majesty's special command』Thomas Nelson & Sons 出版年不明

青山学院大学理工学部電気電子工学科同窓会

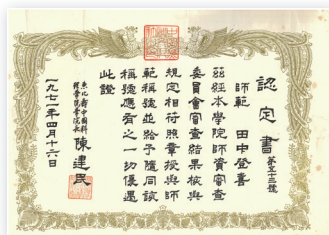
- 『青山学院大学理工学部電気電子工学科同窓会報』第26号 (WEB同窓会報第1号) 2022年9月

鵜飼眞 (常務理事)

- 手鏡 (小崎千代の母、岩村もと旧蔵) (写真⑤)

福嶋裕美子

- 「クワイ河に虹をかけた男～たった一人の戦後処理～」DVD
KSB瀬戸内海放送 2020年2月20日（写真⑥）



写真①恵比寿中国料理学院師範認定書 田中登喜



写真②「うたのまち遺囑 歌あれこれ」



写真③「創立110周年
記念誌 祈りの果実」



写真④「サムエル物語 聖書少年文庫」



写真⑤手鏡（小崎千代の母、岩村もと旧蔵）



写真⑥「クワイ河に虹をかけた男
～たった一人の戦後処理～」

外山信司

- 『風媒花（佐倉市文化芸術アーカイブ）』第33号 2020年6月30日
 - 『こうぼう佐倉』No.1310、No.1312 2019年6月、7月
 - 「津田仙ゆかりの月桂樹 生地に建つ佐倉中学校に植樹」
『佐倉よみうり』No.417抜粋 2019年6月28日
 - 佐倉市広報番組「Weeklyさくら」2019年6月10～16日放送
CD-ROM
 - 『成田市史研究』第44号 2020年3月
 - 『歴史研究』第700号 2022年4月28日
 - 『木更津市史研究』第4号 2021年3月31日
 - 『ユース・トヨタ（トヨタ自動車販売PR誌）』3 1974年7月5日
- 他大学・学校
●年史・紀要類

青山学院資料センターデジタルアーカイブ公開

資料センター所蔵の青山学院史関係資料のデジタルアーカイブを公開しております。
WEB上でも青山学院の歴史に触れることができますので、ぜひご覧ください。

<https://jmapps.ne.jp/aogaku/>



青山学院資料センター利用案内

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、感染対策を実施しております。ご来館の際には青山学院ウェブサイトをご確認のうえ、感染対策へのご協力をお願いします。

●展示ホールの見学

青山学院史関係資料の常設展示を無料にて一般公開しています。

公開時間

月～金曜日 ▼9:30～17:00（入館は16:30まで）
土曜日 ▼9:30～13:00（入館は12:30まで）

●資料閲覧

青山学院史、明治期キリスト教関係資料などを公開しています。
特定の研究目的を持って閲覧ご希望の方はメールにてご連絡ください。

閲覧時間

月～金曜日 ▼9:30～16:30（11:30～12:30は閉室）
土曜日 ▼9:30～11:30

●休室日

日曜日・国民の祝日・夏期休業期間・クリスマス・年末・年始・
その他青山学院が定める休日

●問い合わせ

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
間島記念館2階 青山学院資料センター
TEL 03 (3409) 6742
FAX 03 (3409) 8134
メールアドレス ag-archives@aoyamagakuin.jp

青山学院ウェブサイト内に資料センターのページがあります。
最新の情報および休室日の詳細はこちらからご確認ください。
<https://www.aoyamagakuin.jp/history/mcenter/index.html>



資料センター運営委員

院長（職務上） 山本と志春
常務理事1名（職務上） 楯 香津美
学院宗教部長（職務上） 伊藤 悟
大学図書館長（職務上） 野末俊比古
青山学院史研究所長（職務上） 小林 和幸
大学 教員1名 岩井 浩人

高中部（高） 教員1名 松延 素男
高中部（中） 教員1名 森田久美子
初等部 教員1名 小林 寛
幼稚園 教員1名 西脇 京子
総局長（職務上） 石黒 隆文
資料センター事務長（職務上） 岩本 智実

資料センタースタッフ

資料センター事務：
専任職員 2名
パートタイム職員 2名
（週4日：1名、週5日：1名）
『青山学院150年史』編纂業務：
大学附置青山学院史研究所

Aoyama Gakuin Archives Letter

青山学院資料センターだより 27号

青山学院資料センター編・発行
2023年1月20日発行

